

5. 今後の地域展開に係る意見

(1) 継続的な開催を

今回の実施に当たって困難だったのは、プログラムの内容だけでなく「告知」である。参加者の意見にもあったように、内容がうまく伝わりにくかった。参加してみれば良いものだというのは理解されるのだが、それはワークショップのプロセスを体験しているからであって、体験していない人に必要性や内容をどのように伝えるかが課題であろう。一つの解決策が、前述の「講演会→ワークショップ」という流れである。

もう一つの解決策は、これも前述したが、例えば毎月1回集まって話をするというように、定期的、継続的に開催していくという方法である。継続的なプログラムとして実施することで、今回のように詰め込んで行うのではなく、徐々に理解を深めることができるようになる。また、「子どもとキャリアについて話すということについて考えたい」、「一度そうしたことを話してみたい」という人たちが、気軽に立ち寄れるようになるというメリットもある。

継続的な開催ということであれば、その担い手と場所がその地域であることが望ましい。いろいろな年代層の、いろいろな価値観（人生観、仕事観、職業観）や経験を持つ人たちが集まる方が、グループとして得られることは多い。地域だからこそ、そうした人たちが集まれるのである。

また、その場は、「キャリア」や「キャリア形成」ということについて一定以上の見識を持ち、グループ・ファシリテーションを行えるキャリア・コンサルタント数名が同席するのがよいだろう。参加者同士の話が脱線してしまうのを防いだり、新たな参加者が既にいる人とうまく関係構築できるように支援したりするためである。場合によっては心理的なインパクトを受ける可能性もあるので、カウンセラーなど心理の専門家の参加を求めておくことも必要である。

なお、前述のとおり、今回は、会場の提供や参加者の募集等、湘北短期大学に格別の協力をいただいた。同校関係者がキャリアに対する問題意識が高く、既に地域における大学のあり方などについて先行的に取り組んでいたことが、今回の試行実施の実現に大きな促進要因となっている。今後、このような取り組みを地域で継続的に行うためには、地域に根ざした教育機関や団体等に理解を広め、協力を得ながら実施していくことが求められる。

(2) 実の親子に限らない

今回、実の親子での会話はきちんと時間を取って別にやってもらう方が良いだろうと考えて、実の親子がキャリアについて話す場面を敢えて設けず、「大人世代」と「子ども世代」の世代間交流としたわけだが、これには相応の意味があったと思われる。世代間交流ということであれば、地域でこそ取り組むべき活動といえる。

ただし、地域で取り組む場合は、子どもへの影響を考慮して、まずは親だけで、キャリアを考えることの意味を再確認したり、自分のキャリアについて考えたりということをしておく必要がある。

またある意味では、このこと、つまり親自身が自分のキャリアを考えるということも地域だから行えることである。地域に住む様々な職業の大人が、共にキャリアについて語り合い、それを子どもたちが聞いたり、質問したりすることが出来れば、大人にとっても子どもにとっても仕事人生を考える良い機会になるのではないだろうか。

2005年11月20日

「キャリア」とは何か？

1. 「キャリア」って何？

- 1) 誤解される「キャリア」
- 2) キャリア = 仕事人生(図1)
- 3) 「外的キャリア」と「内的キャリア」(図2)
- 4) 「働く」と「生きる」ことの、2つのバランス

図1 キャリアとは仕事人生

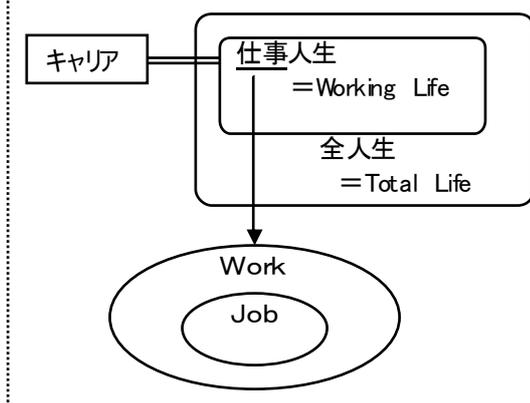
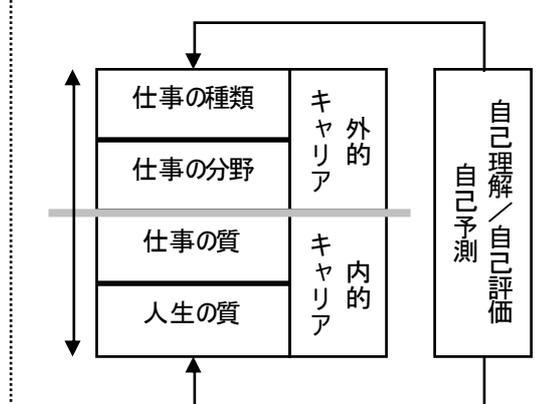


図2 内的キャリア・外的キャリア



2. 家庭で学ぶキャリア教育

- 1) 地域、学校、家庭それぞれの役割
～家庭で学べること、家庭でしか学べないこと
- 2) 子供にとっても親にとっても・・・
- 3) 方法とテーマ

図は全て「キャリア開発／キャリア・カウンセリング」(生産性出版)より

参加者アンケート

★ 1日目：平成17年11月20日(日)

対象者：ワークショップに参加した保護者（9名）

回収数：8件（回収率89%）

回収法：20日のワークショップ終了直後、または23日受付時に回収

○ 今回のワークショップを何でお知りになりましたか？（該当に○）

区分	件数	率
1 湘北短期大学からの案内	4	50%
2 近隣のスーパーマーケットでの案内	0	0%
3 職場関係・知人・友人等	4	50%
4 その他	0	0%
計	8	100%

○ 参加された動機をお教えてください。

- これから就職する子どもたちにフリーターにはなってほしくないと考えています。そのきっかけを子どもたちにも与えたかったこと。
- 我が子が就職に苦労しそうなので親としてどんなアドバイスができるか、勉強したいと思い、参加させていただきました。
- 子どもが中3で、職業にこれからどんな勉強をしたら良いのかを考える時期に来ているので、どのように家庭で対応したらよいか、ヒントを得られたらと思い参加しました。
- 娘のキャリア開発のため。
- 親と子が同時に「キャリア」について考えられること。「キャリア」の考え方の理解をしたい。
- 子どもと、働くこと生きることについて話ができるようにするため。
- 湘北短大からの案内を見て、キャリアを考えるということに興味関心があったため（キャリアって何？ということも含めて）
- 自分も仕事に不満などがあり、働く自信がなくなりそうでしたので、原点に戻って考えるきっかけ作りをしたかった。
- 自分自身の勉強のため。

○ 今日一日の参加を通して、気づいたこと、感想等をお聞かせください。

□ 今日のワークショップの満足度はいかがでしょうか？（該当に○）

区分	件数	率
大 変 満 足	1	13%
満 足	6	75%
普 通	1	13%
不 満	0	0%
大 変 不 満	0	0%
計	8	100%

□ その他、気づいたことや、感想等、自由にお書きください。

- 参加者が少なかったのがもったいないですね。会場近くの高校・大学などに配布してみてもはどうでしょうか。
- こんないいお話が聞ける機会に、参加者が少なかったことが残念です。初めてのワークショップということですが、各学校の保護者にも展開して行ってほしいと思います。
- 広く地域へのアピールや、中・高校での参加を募るとよいと思う。
- 参加者が少なく残念でした。その中で父親の参加が少ないことが大きな課題と思います。家庭のこと（教育を含む）はまだまだ母親が中心で、父親は仕事中心の社会環境になっているのが現実です。今回のようなワークショップは両親と子どもの参加で実施する方がよい結果につながると思いました。
- 参加者が少なく残念でした。先着50人までとか100人までとか書いたらどうでしょうか。案内文の内容も、もっと分かりやすくしたらどうでしょうか。
- いわゆる業界の人が多くご出席になっていましたが、次回はもう少しいろいろなバックグラウンドの父母の出席を促進した方がよいと思います。
- 他の親の考え方等、“ザックバランな”雰囲気があり、話しやすかった。
- いろいろな方と共通課題で意見交換することは、自分の考え方を見つめ直す良い機会であるのでもっと多くの方に知ってほしいと思います。
- このような機会を今後もつくってください。
- 我が子にしても、日本の現代の若者が就職についてきちんと考えているのだろうか？ また、どんなことを考え、相談された時に親がどう答えるか？ 等々、今回参加してとても参考になりました。親として、子どもにアドバイスできる資料もいただき、ありがとうございました。
- 少し時間が長いのかなーと思いました。頭を使って少々疲れました。事前にWS 1, 2をWS 3のようにいただければ、もう少し時間短縮ができるのではないのでしょうか。自分自身考える時間を作るようにしたかったと思います。
- キャリアの勉強をしている人は、今回の流れが理解できるが、もう少しどういうことをしないといけないということを伝えないと、何で自分たちの仕事について話し合うのかわからないのでは？

★ 2日目：平成17年11月23日(水) 勤労感謝の日

対象者：ワークショップに参加した保護者（8名）と子ども（9名）

回収数：保護者8件、子ども9件（回収率100%）

回収法：23日のワークショップ終了直後回収

【保護者アンケート】

- 一日目に参加されたときは「何をやらされるんだろう」の不安もあったと思いますが、今朝、来られたときの気持はどうでしたか？（該当に○。いくつでも可）

区分	件数	率
もっと他の人の話を聞きたいと思った。	6	75%
自分自身のことをもっと話してみたいと思った	0	0%
「今日はどんなことをやるんだろう」とワクワクした	5	63%
仕事についての子どもの話を聞くのが楽しみに思った	7	88%
あまり気乗りがしなかった	0	0%
その他	1	13%

- 二日間を通しての満足度はいかがでしょうか？（該当に○）

区分	件数	率
大 変 満 足	1	13%
満 足	7	88%
普 通	0	0%
不 満	0	0%
大 変 不 満	0	0%
計	8	100%

- 今回のワークショップには、どのようなことを期待して参加しましたか？

- 子どもが参加していたので、子どもがどんな風に考えていてどんな発言をするのか聞くのが特に期待していたことだった。また、それにプラス、他の保護者の方の仕事観も聞けることも楽しみだった。
- 参加されるお子さんたちの仕事観について聞いてみたかった。
- 学生がどんなことを考えているのか聞きたかった。
- 働くということについて、子どもと話をする際のいろいろな考え方について、他の人から伺うこと。
- 親の考え方、子どもの考え方にどのようなギャップがあるのか？ どのように解決できるのか？
- 親として、子どもに職業のことを聞かれた場合、どのように答えたらよいか聞きたかった。

- 若年者の職業問題についていろいろな議論がある中で、親子という枠組みでどのような取り組みができるか関心があった。
- 仕事とは、働くとは、について、お話が聞きたかった。
- 自分自身の整理。
- 他者との交流（意見交換）。

○ 参加してみていかがでしたか？ 期待していたことは満たされましたか？ 思いがけず得られたことはありましたか？

- 自分の子ども以外の若い世代の方々と、仕事以外で職業について語り合うという経験はなかなかできないので、貴重な機会になったと思う。
- 他の子どもたちの意見をいろいろ聞いたことは、期待80%ほど満たされた。しかしながら、自分の子どもの考えが聞けなかったのは残念でした。
- 今回参加の子どもたちは、きちんと仕事について考え、理解しようとする姿勢を持っていた。もっといい加減（悪い意見ではないが）に考えている人が多いのかと思っていたが、これが驚きでした。
- 参加してよかったです。意外にも子どもたちの考えが私の同じくらいのときに比べてずいぶんしっかりされ、自分のことや仕事について真剣に考えているとわかり、感激しました。
- 子どもたちがしっかりしていた。
- 他の親の考え方、生き方、子どもの話を聞くことができた。
- 他者の「キャリア」（仕事）についての取り組み等、理解することができた。
- 他の人の意見を聞いて、とても参考になりました。はっきり確認できてよかったです。
- わかりやすい話が聞けたと思います。
- 自分の整理ができた。有識者のお母様が多くて意外だったが、だからこそ参加意識が高いのだと思いました。

○ 次回、同様のワークショップに参加するとしたら、どのようなことを聞いてみたいですか？ 話してみたいですか？

- 子どもが仕事や会社、職業について、どのような認識をしているのかということ、ジックリ聞かせてもらう時間があまりなかったように思うので、このような現状認識の部分を先ず聞いてみたい。そうすれば、もう少し子どもの側の聞きたいことにポイントを絞って話せたかもしれないと思う。
- 仕事観や現在の思いを、親側・子供側からももっと発信できると良かったともいます。
- 仕事に就くこと、こんなことをしたいと考えているのか、考えていないのか。考えているとしたらいつごろから意識し始めたのか。仕事に対する不安はどんなことか。親に何をしてほしいのか。
- 働くといったときにどんな職業をイメージしているのか。貴賤はないといわれるが、本当に